

地震・津波だけじゃない！ 台風や大雨も大きな災害に つながる可能性あり

○台風とは

熱帯の海上で発生する『熱帯低気圧』のうち、北西太平洋または南シナ海に存在し、中心付近の最大風速がおよそ17m/秒を超えるものをいいます。アメリカのハリケーンやインド洋のサイクロンも、台風と同じ性質を持った熱帯低気圧です。

台風の寿命は、短いものから長いものまで台風によってさまざまですが、平均すると5日間くらいです。

台風の一生は、①発生期（最大風速が17.2m/秒を超えて「台風」と呼ばれるまで）、②発達期（中心の気圧が下がり続ける）、③最盛期（中心の眼がはっきりしてくる）、④衰弱期（気圧が上がり温帯低気圧や熱帯低気圧に変わる）の4つに分けられます。

一番多く発生するのは8月、次いで9月、7月の順で、特に9月に発生する台風は強いものが多く、進路や強さのちょっとした違いによって被害が大きく左右されるため、テレビやラジオ、インターネットなどで常に新しい情報を入手することが大切です。



○集中豪雨とは

短い時間内に狭い範囲で集中して多量の雨が降ることをいいます。

特に梅雨期の終わり頃の前線が停滞しているとき、台風が接近しているときや上陸したとき、大気の状態が不安定で雷雲が発生するときなどは、注意が必要です。

非常に強い雨が、同じ場所で何時間も降り続くと、河川の増水や氾濫、家屋への浸水、土砂崩れやがけ崩れの発生など、大きな災害となります。

予報が困難であり、警報や注意報が急に出されることもあるので、最新の気象情報をよくチェックしておきましょう。

○高潮とは

台風や発達した低気圧の影響により、海面が異常に高くなる現象をいいます。海面の高さは、潮の干満によって変化し、満潮時で大潮のときに台風がぶつかった場合は、潮位はさらに高くなり大きな波が打ち寄せます。

気圧が1hpa（ヘクトパスカル）下がるごとに海面は約1cm高くなります。例えば、1,000hpaのところで、中心気圧950hpaの台風が接近してくると、50hpaの差、つまり海面が50cm上昇すると考えなければなりません。

○土砂災害のおそれがある地域では

土石流、地すべり、がけ崩れなど、土砂災害のほとんどは大雨や長雨などが引き金となって起こります。

山やがけが迫っている土地、高台や傾斜地などでは、普段から非常持ち出し品を用意したり、避難場所や避難経路を家族で話し合い、確認しておくことが大切です。

特に梅雨時、秋の長雨、台風シーズンには十分な注意が必要です。

○こんな「がけ」が、特に危ない！

はり出したがけはもちろんのこと、勾配が30度以上ある場合は注意が必要です。

がけに浮き石や亀裂、湧き水があつたりしたら、危険の前兆かも知れません。普段から気をつけてください。

○こんな「まえばれ」が、もっと危ない！

がけから頻繁に小石が落ちる、亀裂が走る、水がにごる、音が聞こえる…

こうなると何らかの異変が起こっていると考えられるので、十分に注意してください。



知恵袋「大雨・長雨のときは、早めに避難を」

近くのがけがある場合は、常日頃から注意を払い、大雨や集中豪雨が予報されたり、がけ崩れのまえばれに気がついたら、ためらわずに避難しましょう。

お年寄りや子供がいるご家庭では、特に早めの避難を心がけてください。どうしても避難できないときは、1階よりは2階へ、がけとは反対側の部屋へ移動しましょう。

